



中高等部で冬まつり NY補習授業校W校

ニューヨーク補習授業校ウエストチェスター校（小島昇校長、児童生徒数433人）は12月13日、中高冬まつりを開催した。生徒会主催で、企画、立案、計画、実施までを生徒が行い、今年は「だるまさんが転んだ」とパン食い競争を実施した。「だるまさんが転んだ」は、「だるまさんが顔を洗う」や「だるまさんが歌を歌っている」など鬼の掛け声の最後の言葉のポーズで停止しなければいけないというルールで、早い動きで鬼に近づき、迫力がありながら笑いの絶えない競技となった。パン食い競争では、担当の高1の生徒達が高さの調節など慎重に行い、生徒達はパンを口で頬張り、走り抜けるという競技で生徒も先生も走者に目が釘付けになった。最後は先生達のレースもあり、普段見れない先生達の姿に生徒達は大変盛り上がった。会場は最後まで笑い絶えず、今年の中高冬祭りも思い出に残る行事となった。

ニューヨーク日本人学校（本荘真校長）は12月



9年生を送る会 NJ日本人学校で

18日、「9年生を送る会」を開催した。この日のために7・8年生が協力して準備を進め、これまでで学校生活を支えてきた9年生への感謝と受験へのエールを込めて会をつくり上げた。当日はレクリエーションで笑顔が広がり、7・8年生が制作した思い出ムービーが流れると、会場は温かな雰囲気になった。

会の終わりに、9年生1人1人から7・8年生に向けて思いのこもったメッセージが届けられた。9年生からは「今までの楽しい思い出がよみがえってきた。これからも受験の励みになりました」といった声が聞かれ、笑顔いっぱいの中にも名残惜しさが感じられる、心温まる会となった。

続いて行われた補習校部小4・5・6年生およびプリンストンコース小中高生

ダブルダッチ大会で優勝や優秀な成績を収めてトロフィーを手にする育成学園の選手たち



マンハッタンのタウンホールで12月14日開催された国際ダブルダッチ大会で、ニューヨーク育英学園から出場したチームが優秀な成績を収めた。日本、フランス、香港をはじめ、世界各国からチームが集う中、7年生チーム「F.U.J.I」がスピード部門で優勝。全体では4部門で入賞（優勝1、準優勝2、4位入賞1）という輝かしい結果を残した。今回で16回目の出場となる同学園は、毎年安定した成績を収めており、継続的な挑戦と成果が高く評価されている。ダブルダッチは、2本の縄を使って行う競技で、回し手が操る縄の中を選手がスピーディに跳びながら、ダンスやアクロバットを組み合わせたパフォーマンスを披露する。主な競技は、2分間の跳び回数を競う「スピード部門」と、音楽性や構成力、表現力を競う「フュージョン演技部



18日、「9年生を送る会」を開催した。この日のために7・8年生が協力して準備を進め、これまでで学校生活を支えてきた9年生への感謝と受験へのエールを込めて会をつくり上げた。当日はレクリエーションで笑顔が広がり、7・8年生が制作した思い出ムービーが流れると、会場は温かな雰囲気になった。

会の終わりに、9年生1人1人から7・8年生に向けて思いのこもったメッセージが届けられた。9年生からは「今までの楽しい思い出がよみがえってきた。これからも受験の励みになりました」といった声が聞かれ、笑顔いっぱいの中にも名残惜しさが感じられる、心温まる会となった。

続いて行われた補習校部小4・5・6年生およびプリンストンコース小中高生の児童による発表では、授業で学んだ内容や、丁寧なリサーチを重ねたことがうかがえる発表が多く見られた。1週間前に予定されていた本イベントは、降雪による休校のため延期となり、日程および会場を変更して開催された。

ダブルダッチ大会 NY育英が優勝

「7年生チームF.U.J.I」



門」。近年は日本でも地方大会や全国大会が数多く開催され、オリンピック競技化に向けて世界的に人気が高まっている。同学園でダブルダッチを指導するのは、数々の国際大会で優勝経験を持つ等間将平教諭。初心者からプロレベルまで、それぞれの成長段階に応じた丁寧で質の高い指導を行っている。技術面だけでなく、挑戦する姿勢や仲間と協力する大切さを重視した指導が、子どもたちの心身の成長を支えている。練習は週3回行われ、小学生から中学生までが在籍する。瞬発力や持久力、リズム感、そしてチームワークを養うことができるダブルダッチは、幼児や小学生のいわゆる「ゴールデンエイジ」に適したスポーツとして、保護者からの支持も厚い。等間教諭は「国際的な舞台で優勝という結果を残せたことは、子どもたちにとって大きな自信につながりました。日々の努力が国や文化を越えて評価された経験は、今後の人生において子どもたちにとっても大切な財産になると思います」と話した。

プリンストン日本語学校で学芸会と学習発表会

The Story of the UN Peace Bell

ニューヨーク国連本部に鐘を贈った日本人の物語

コインでつなぐ 平和の鐘

高瀬聖子 原案
Story by Seiko Takase
あいざわるつこ 絵・文
Text & Illustrations by Rutsuko Aizawa

発行元：国連平和の鐘を守る会
原案：高瀬聖子 絵・文 あいざわるつこ
米国販売代理店：ニューヨーク生活プレス社

絵本『コインでつなぐ平和の鐘』絶賛発売中！

ニューヨークの国連本部ビルの日本庭園にある「平和の鐘」は、愛媛県宇和島市長を務めた中川千代治元日本国連協会愛媛県副本部長（1905～72年）が、日本が国連に加盟する前の1951年、パリにおける国連会議に出席した際に世界65か国から寄贈された各国代表のメダルや硬貨、ローマ法王からの寄贈メダルや日本の古銭などを加えて「平和の鐘」を作り、54年に日本国連協会の名の下に国連本部に寄贈したものです。2年後の56年に日本は80番目の加盟国となり国際社会に復帰。毎年9月末に国連事務総長がこの鐘を突いて国連総会の開幕を告げるのが長年の習わしで、この日は「国連平和デー」と呼ばれています。日本が国連に加盟して62周年を迎えた今年、この絵本は、日本から平和を訴える強いメッセージとなるでしょう。

The Story of the UN Peace Bell

In 1951, before Japan became a member of the UN, Chiyoji Nakagawa of Uwajima, Ehime Prefecture went to the UN Conference in Paris at his own expense. He then gathered coins and medals from the delegates of 65 nations who were participating in the conference, added a donative medal from the Pope as well as Japanese coins and cast the Peace Bell with all the pieces. The bell was donated under the name of the UN Association of Japan and installed in 1954; two years later, Japan officially became the 80th member of the UN. Every September on the International Day for Peace, it has become a tradition that the United Nations Secretary-General rings the bell to mark the opening of the UN General Assembly. This year marks the 62nd anniversary of Japan joining the United Nations, and the picture book conveys a significant message of peace from Japan.

国連本部に鐘を寄贈した日本人の物語



取扱い店：国連本部地下書店
United Nations Bookshop
48th Street and 1st Avenue
Room GA-1B-103
Tel:212-963-7680
または週刊NY生活まで
電話 212-213-6069
価格：\$23